平成１７年度広島県道徳教育実践研究指定事業
第６回定例報告会資料

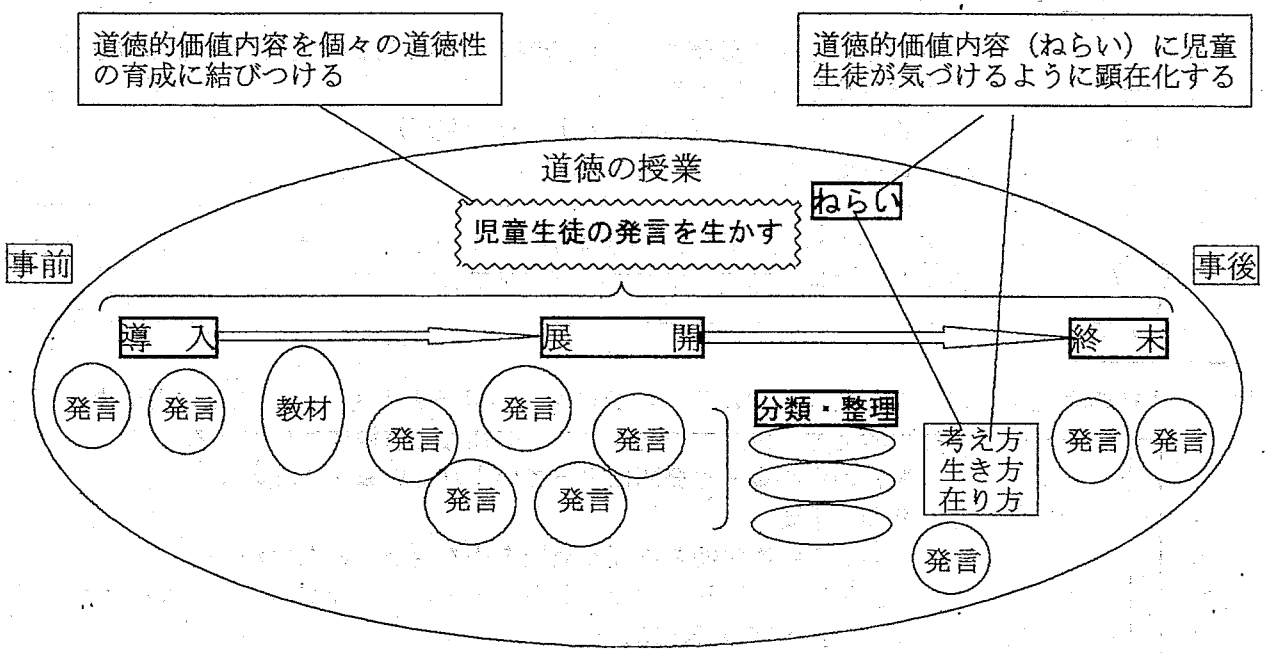
平成１７年９月２６日
於；東広島市立高屋東小学校

児童生徒の発言を生かす道徳授業

香川県高松市立仏生山小学校　　日下　哲也

1　児童生徒の発言を生かす，道徳授業の全体像

「児童生徒の発言を生かす」とは，一人一人から生まれてきた考え（発言）を分類・整理し，集団で話し合うことを通して練り上げた道徳的価値観を生かして個々の道徳性を育成することと考えた。その前提として，発言が出やすい環境作り，教材（資料），学習方法，表現方法等の工夫をすることが必要である。



2　道徳の授業のねらい

	道徳性のとらえ方	道徳の授業の進め方	課　題	発達
価値内容の理解を重視する	道徳的にみて望ましいと考えられる一定の諸価値が内面化された状態を道徳性と捉える。	道徳的諸価値の内面化を図る。子どもたちに，価値の再発見をさせる。	価値の押しつけの危険性 現実との矛盾	小
価値内容を選択する力を重視する	主体的に「価値づけ」を行うことのできる能力を，道徳性と捉える。	グループ討議等を用いて，主体的な価値選択能力を培う。自分づくりを支援し，問題を発見し，解決する力を培う。	個人の価値観で這い回ってしまう	中
段階的に発達する	道徳性は人間に本来共通に備わっているものであり，それは段階的に発達していくものであると考える。	道徳的な葛藤状況の解決を巡って，道徳性の発達段階の隣接した小集団でディスカッションする事を通して，道徳性の発達を促進する。	心情面と判断面のバランス	

3　道徳の授業の基本的な過程

導　入

児童・生徒の実態

○　学級の全児童生徒の意識を短時間のうちに，本時でねらう価値に結び付けるようにする。

○　自分の考えや意見を素直に表現できる雰囲気（指示的学級風土）を作る。
- 意見を言っても否定されない。無視されない。
- たくさんの意見が採り上げられる。
- せっかく言っても一つにまとめられて自分の考え（居場所）がなくなる。

教師の話，意識調査の結果，実物の活用，生活体験の発表，児童生徒の作品や作文の活用，資料（写真，絵）など

展　開

教　　材

○　ねらいとする価値を，中心資料の人物の行為や考え方，感じ方を通して追求させるようにする。

○　資料の是非（価値内容，児童生徒の発達）

○　資料提示の仕方を工夫する。

範読，グループ読み，語り聞かせ，絵話，ペープサート，紙芝居，スライド，実物，写真，録音テープ（効果音）など

児童・生徒の考え

○　中心場面における主人公に共感させるとともに，主人公に託した児童生徒の考え方，感じ方を発表させ，多様な価値観に気付かせる

○　教材の中心場面や発問によって促された児童・生徒の反応

○　発問の重要性
- 前から順次気持ちを問う発問を繰り返していないか。
- 先生は正しい答えはないから・・・と言いながら一人二人が言うと「そうだね」と言って次にいく。
- 資料を読めば分かる質問だけになっていないか。
- 一度に２つのことを聞いていないか。
- 応えられる児童生徒が限定されていないか。
- ねらいが主として心情なら
  「どんな気持ちで～したでしょう。」
  「どんな気持ちになったでしょう。」
  「○○は心の中で何とつぶやいているでしょうか。」
- ねらいが主として判断なら
  「どんな考えから～したのでしょうか。」
  「～しながら，どんなことを考えていたのでしょうか。」

役割演技，バズ学習，ダイアログ学習，グループエンカウンター，鉛筆対談，書く活動（ノート，吹き出し，カード）

第１次表現

資料の主人公に共感しその人物に託して自己を語る。

＜動　作＞　動作化，人形劇づくり，劇づくり，役割表現，ごっこ活動等

＜図・表＞　構成図，設計図，しくみ図，グラフ，心情曲線，感じ方曲線等

＜絵　画＞　絵図，塗り絵，立体模型図，絵地図，絵と文，顔の絵，カルタ，おもちゃ，紙芝居，アルバム等

＜言　語＞　絵と文，絵本，ノート，新聞，紙芝居，文カード，心カード，アルバム，ふきだし，討論，詩，短歌，文章表現（説明文，作文，感想文，解説文，シナリオ）等

<記　号>　色カード，印カード，線等
<音　楽>　替え歌，作曲，リズム等

交　　流

価値内容に対するそれぞれの考え方に学ぶ。

○　ねらいとする価値に対する多様な考え方や感じ方を分類し，整理して板書する。

低学年・・・　友達と共同作業を行う中で，自他の言い分を調整する調整力を身につける。

中学年・・・　グループ内で活動性を生かして活動し，自他の考えを調整し，正しく考え，判断する内面化を図る。

高学年・・・　自他の関係の中で自分を振り返り，自己の過ちを自己修正し，矛盾を克服していく。

○　仲間に分ける観点（観点を示す，一つ選ぶ，無条件で分ける）

・多数，少数

・基準に照らして

例 1)　コールバーグ理論

第１段階　正しさが，罰を避け，強い者や権威に服従することによって規定される

第２段階　正しさが，自分や人の必要を満たすことによって規定される

第３段階　正しさが，身近な対人関係における期待や役割などから規定される

第４段階　正しさが，社会の法や秩序の尊重ということとの関連で規定される

第５段階　正しさが，社会を構成する個人の権利の尊重という観点から規定される

第６段階　正しさが，普遍的な道徳原理によって規定される

例 2)

自分のこと，相手の人のこと，みんなのこと

第２次表現

○　自分の考えを修正したり友達の考え方を付け加えたりして，自分の生き方・在り方とする。

○　資料を離れ，把握した価値に関わる経験を想起し，事実を通して自分の考え方，感じ方，行為の傾向性を見つめさせ，これからの生き方について自覚させる。

・心情を練るときの子どもの発言

どうしてそんなふうに思ったんだろう。

すごいね。○○さんてどうしてそんなふうに思ったん。

・判断を練るときの子どもの発言

～の考えは分かるけど～

私は～だと思う。それは，～

体験学習におけるＶＴＲ，体験前後のアンケート，導入時に使った意識調査の結果，道徳ノート

終　末

実践への意欲化

○　本時の授業でねらいとしたことを振り返り，価値への関心の継続を図る。

教師の体験談，友達の作文，日記，手紙，詩，新聞記事，テレビの話，格言，ことわざ，家の人の手紙や話，ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰの話，心のノートなど

事後指導

○　道徳的実戦に向けて意識をつなぐ。

・　他領域における実践の場を工夫する。

・　自分の学んだことや実践したことを発表する場を設ける。

4　道徳教育改善の視点

(1)　**道徳的実践力と道徳的実践の統一**

①　一人一人の内面に根ざした道徳的実践力の育成

②　道徳の時間と他領域との関連

③　子どもの全生活圏を通して，道徳性の育成のための指導の一貫性

(2)　**教師の援助の視点**

①　個々の子どもへの援助の視点を明確にするための児童理解

②　子どもの多様な価値観を生かすための資料分析

③　子どもの実態と発達課題からみた指導内容の分析

④　子どもが自分のこととして学び，考えを深めていけるための道徳の時間の多様化と指導の工夫

⑤　子どもが自らの伸びを確かめられる自己評価

(3)　**道徳教育の公開**　（子どもに，保護者に，地域に）

①　「今日は何をするの。」「今日は道徳するの。」「今日は体育しよう。」からの脱却

・道徳授業の年間指導計画を掲示する。

②　保護者に道徳の授業で話し合ったことや年間指導計画を情報発信

・教師への啓発

③　地域に道徳の授業で話し合ったことを情報発信

・一貫した道徳性の育成

・地域連携の促進

5　道徳授業について

(1)　**「単時間道徳学習」**（道徳的価値認識を深める）

①　多様な教材（読み物資料以外）の開発

②　複数の教材を使う

③　視聴覚教材や読み聞かせ（1ヶ月ぐらいの読書資料），説話

④　子どもの体験や日常の活動を教材化する

(2)　**「総合単元的な道徳学習」**（道徳的価値の自覚を促す）

①　道徳教育目標の重点

②　体験を生かした表現と活動

③　他領域との関連

(3)　**「繰り返し道徳学習」**（基本的な生活習慣や社会のルールの定着及び悩みや心の揺れ，葛藤等の解決を目指す）

(4)　**学び方**

①　**論理的操作と感性的操作**

類別思考，関係思考，条件思考

②　**集団活動の中で個が生きる相互交流を探る**

ア　集団活動の中で個が生きる相互交流の重要性

イ　個が生きる相互交流の要件

集団活動で役割分担をして，個の位置づけ（居場所）を明確にして行う交流

ウ　集団活動でまとめていく交流

6　縦と横との連携

(1)　**幼・小・中の交流学習の意義**

(2)　**開かれた学校と地域の教育力の活性化**